

移り変わるまちの今昔

阪急箕面駅

頭集
巻特

『箕面大滝』や『瀧安寺』などの名所で知られる箕面市箕面エリア。その生活の中心となっているのは阪急「箕面駅」だ。観光を目的に整備された『阪急電鉄』最古の駅のひとつである駅の歴史をたどった。

箕面駅のあゆみ

明治43年(1910年) 『箕面電車』開業

『箕面有馬電気軌道(現・阪急電鉄)』、通称『箕面電車』が開業。『箕面公園』の手前に『箕面動物園』も開園した。翌年には停留所前が臨時珍しかったコーヒー専門店「カフエパウルスタ箕面喫店」が開店するなど、ユニークな施設が数多くあった。



▲園内にはラクダに乗れるコーナーも

大正9年(1920年) 駅周辺の宅地化

ラケット形線路を廃止。運動場もなくなくなり、宅地化された。『箕面公園』に代表される豊かな自然環境と、都心よりも広々と暮らせる住宅事情が人気を呼び、以降郊外都市として発展していく。

昭和54年(1979年) 『箕面駅』の再開発

駅前ロータリーが完成し、駅全体も南北に伸びた。『みのおサンプラザ1号館・2号館』がオープン。開館記念のパレードも開催された(写真⑩)。ロータリー内には当時、大きな噴水があった。



現在に至る

2011年には駅構内に観光案内所を併設した『みおの足湯』が完成。在来の『阪急バス』に加えて『オレンジゆるバス』も運行開始し、開業から108年が経過した現在も週末には多くの観光客が訪れる。



1 開業期のラケット形線路。敷地内の大きな建物が公会堂 2 滝入口の「ライオン塔」 3 『箕面動物園』内にあった立ち乗りの観覧車 4 「牧落駅」と「箕面駅」の間を走る阪急電車 5 昭和51年(1976年)、観光客で賑わう駅北側 6 昭和58年(1983年)の「みのお本通り商店街」 7 再開発後(1986年)の駅前。現在の姿に近づいた

この線路には大きな特徴があった。石橋方面からやってきた電車は下りの停留所で乗客を降ろすと、そのままぐるりと大きく楕円を描いてUターン。楕円の反対側で上りの乗客を乗せ、石橋に戻っていく。『テニスラケット』にもたとえられたこの線路(写真①)のアイデアは、『箕面有馬電気軌道(現・阪急電鉄)』の創業者、小林一三氏によるものだった。線路で囲まれた広大な敷地に公会堂や運動場を建設。周辺には『箕面動物園』(写真②)やカフェも完成し、箕面は自然豊かなだけでなく、おしゃれで楽しい観光スポットとして人気を呼んだ。開業翌年には子ども向けの大会イベント「山林こども博覧会」(写真⑧)が駅と動物園を会場に1カ月間行われ、その盛り上がりがかげえらる。

駅全体がアトラクションだった「箕面駅」。しかし大正時代に入ると『箕面動物園』の廃園、公会堂の移設が相次ぎ、『箕面駅』開業の10年後にはラケット形線路が廃止されて西側の線路だけが残った。その後、小林一三氏は運動場の宅地化をすすめ、駅周辺には住宅や商店が増加。駅前の大規模な観光施設は姿を消したが、『箕面公園』では遊歩道が整備され、休憩所や川床など憩いの施設が充実していく。こうして箕面は自然豊かな、都心へもアクセスしやすい郊外のまちとして発展した。

昭和の再開発を経て かすかに残るまちの年輪

次に大きな転機を迎えたのは昭和54年(1979年)の駅前再開発だ。広場がロータリーに変わり、『みのおサンプラザ1号館・2号館』がオープンして現在の『箕面駅』に近い姿となった(写真⑦)。駅前の個人商店の一部は館内に移転。「北摂で最大級のショッピングセンターができた」と話題になりました」と話すのは、移転した店舗のひとつ、『肉のサンエイ』4代目の堀戸由紀夫さん。同じく『三谷屋洋服店』3代目の佐々木さんは学生時代を過ごした再開発前の駅周辺を振り返り、「たしか高校生の頃に『ミスタードーナツ』の第1号店が開店して、友達とよく行ったね。再開発で閉店したけど、ハンバーガーの店『コーダ』にも学生が集まっていた」と懐かしむ。再開発後もしばらくは駅前に乗合馬車が

阪急「箕面駅」手前の 不思議なカーブ

阪急「石橋駅」から出発する阪急箕面線。緑色の座席に背中を預けて電車に揺られていると、終点「箕面駅」の手前で線路がゆるやかにカーブしていることに気づく。終点駅ならまっすぐ作られてもよさそうなのになぜだろうか。実はこのカーブは、開業当時の線路の形に由来している。

話は明治時代にさかのぼる。古くから風光明媚で有名な『箕面公園』だが、たどり着くには少々不便な場所だった。観光客は摂津鉄道「池田駅」現在のJR「川西池田駅」から約6キロの道を徒歩や人力車で向かったという。そんな交通事情が一変したのは明治43年(1910年)。「箕面公園駅」(現「箕面駅」)が開業し、都心から直接訪問できるようになったのだ。



8 駅と動物園を会場にした「山林こども博覧会」。写真は駅敷地内の会場地図。無線電話の体験ブースや子象、富士山の形をしたすべり台など、遊び心いっぱいのコーナーが会場を埋め尽くした

停まり、観光客を出迎えていたという。駅前が現代的に生まれ変わる一方で、失われていった景色もあった。度重なる区画整理や再開発で、開業当時の面影は年々見つけづらくなっていく。それでも駅東側の丸いロータリーや周辺の段差、そして冒頭に紹介した線路のカーブからは、108年前の姿が浮かび上がる。まちの歴史を辿りに、春の「箕面駅」を散歩してみよう。

取材協力・出典
【取材協力】箕面市、「三谷屋洋服店」、「肉のサンエイ」
【史料出典】1~3、5~7、9、10 箕面市行政史料 4 渡邊一樹氏所蔵史料 8 松崎貴之氏所蔵史料

▶次ページ「このまち、ふらり」で
開業当時の線路の形を見てみよう!

